

【中泊町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身が ICT を学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICT の特性を最大限に活用して、誰 1 人取り残すことなくきめ細かな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びや多様な学びの機会の充実に目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、デジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

2. GIGA 第 1 期の総括

GIGA スクール構想の下、中泊町の小中学校においても、公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、高速大容量の構内 LAN や 1 人 1 台端末、電子黒板等の一体的な整備を行い、学校における ICT 環境の充実に努めてきた。

令和 2 年度に普通教室への無線 LAN の整備やタブレット保管庫の整備を実施し、校内通信ネットワークのためのインターネット回線（各校 1 Gbps）を整備し学習用無線 LAN の運用を開始した。令和 4 年度に開校した小中一貫校のこども園は建築時に、中里中学校においては Wi-Fi 増強工事を行い全館で利用できるようになった。その他の小学校においては、持ち運び可能な Wi-Fi ルーターをリースし、教室以外でもインターネットが利用できるようにしている。

ハード面の整備と共に、ICT 機器を活用した授業を展開するため、令和 2 年度に学習支援ツール、令和 3 年度に AI ドリル等を整備した。

ICT 環境が整備され、授業等での活用機会が増加したものの、通信量が増大し学習用無線 LAN の通信環境が不安定で速度が十分に確保されていない学校も見られるようになった。特に令和 7 年度からメタバースを活用した英語教育

を全校で展開する予定の本町においては、喫緊の課題となっていることから、令和 6 年度中にネットワーク回線の強化に向けた、調査・整備を行っている最中である。

これらを踏まえて、GIGA 第 2 期においては、1 人 1 台端末においてメタバーズの活用やデジタル教材を活用することによりに端末の利活用を推進させ、主体的に学習に取り組み、個別最適な学びの充実に向けた機会を創出することが重要だと考える。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末については、公教育の必須ツールとしての役割を踏まえ、次回の調達の際は現在使用している OS から変更することも視野に入れながら計画的な更新に取り組む。学校の通信環境については、児童生徒数が多い学校でも、一斉に接続しても安定的に利用できる通信環境に努め、ボトルネック等の ICT 利活用の障害となる要因への対策を講じていき、児童生徒及び教職員の意欲を阻害することなく、新たな学びへの挑戦を支援することとする。

1 人 1 台端末を活用した授業実践のため、現在利用している学習支援ツールや AI ドリルが最適なものかを判断していき、児童生徒が主体的に取り組み、才能を伸ばす個別最適な学びに繋げる取組を展開する。

また、児童生徒が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行うことができるサービス活用し、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、共同的な学びの充実を目指した ICT の活用方法について有効事例等の情報を共有し、教員の知見を広げる取組を展開する。

これまでの、ICT を活用した実績を基に、ペーパーレスや教員の働き方改革、児童生徒の学力向上等を目標に掲げ、当町の児童生徒が 1 人でも時代の流れに取り残されないような教育を推進していきたいと考える。